

# 撃たざるようになりたい!!

## 学習のポイントシリーズ第5回

「数学ができるようになりたい人?」と聞けば、皆さんはどう答えるだろうか。たぶん「できるようにはなりたいたけれど……」。そうその「……」のところには、「面倒くさいのは嫌」「大変そうだから」「難しいから無理」などが入ると思う。みんな、なにもしないでできるようにすることがないことはわかっていいるのだと思う。だから、まず数学をできるようにしたいと思う人はそれなりの努力をする覚悟をしなくてはならない。そこで次の質問「それでも数学ができるようになりたいですか?」



この質問に「はい」と積極的に答える人も、消極的に(仕方なく)「はい」と答えた人も、この後にできるようにするための方法を書くのでぜひ読んで、さらに実行してください。「いいえ」と答えた人は、もう数学を諦めてしまった人かな?非常に残念なので、とりあえず読んでみて自分にもこれは出来るかなという部分を取り入れてみてください。少しでもプラスになれば幸いです。せっかく塾に通っているのだから上を目指そうぜ!

まず、単に数学ができるようになりたいといっても、イメージするものがいくつかあると思います。①テストで点数が取れるようになる。②問題にしっかりと取り組み考える力を付ける。

③頭の回転を早くする。などですが、多分ほとんどの人は①だと思いますので、それについて続けます。

テストで必要な力とは、①『学習内容の理解』、②『正確さ』、③『スピード』、以上の3点です。例えば①の『学習内容の理解』を欠いていたら、当たり前ですが問題が解けません。②の『正確さ』を欠いていたら、きちんと計算したつもりでもあちこちでミスが出て正解にたどり着けません。よくケアレスミスとしてとらえられる現象です。③の『スピード』を欠いていたら、解けた問題は正解しても時間切れで解けなかった分だけ得点を落としてしまいます。時間切れでできなかった問題の中に基本的な問題もあったかもしれません。このように、どれ一つも見逃せない力ですが、意外とこれらを意識して勉強している人は少ないです。なんとなく、ワークをやって一通りワークが終わったから勉強した気になる。しかしあまり結果が出ない。そして、勉強しても結果が出ないならやっても無駄だとさらに学習量を減らす。そんな悪循環にはまらないようにしたいものです。

さて、具体的な学習の仕方について。

- ① 学校でも塾でも授業中にまず一度理解する。
- ② 問題集(ワーク)を解く。
- ③ できなかった問題を理解し、解き直す。

たったこれだけです。しかも今まで何度も聞いたやり方です。そうなのです。これをしっかりとやりさえすれば、できるようになるのです。ただ、点数が取れない人はこれをやりません。逆に言えば点数を取っている人は、本人が意識しているかどうかは別にして、この作業をきちんとやっているのです。

① 授業をいい加減に受けている人は出来るようになりません。またできるようになるとしても、授業中に理解する以上の努力を別にしなければなりません。授業を受けて内容を頭に入れる作業をきちんとすることが必要です。これを「インプット」といいます。インプットがキチンとできないと、先には進めません。特に数学は前の授業でやった内容などがあいまいだと次の内容も理解しにくくなっていきます。苦手な人も次の授業からきちんと受けてください。

② 問題集を解くという事は「インプット」した内容を正確に頭から引き出せるかの練習です。これを「アウトプット」といいます。

では、やり方です。丁寧に解きます。普段雑な人の計算ミスは減りません。時間がかかって面倒なのですが、普段からきちんと途中式を書き丁寧に解くことが結局は近道です。本番だけミスをなくそうというのは甘い。ケアレスミスが多い人は、ミスをなくそうと思っても減りません。丁寧に身を付けよう。

次に、解いた問題の解説をきちんと読む。合っていた問題も読んだ方がよいでしょう。自分のやり方より良いやり方をしている場合もあるからです。間違えた問題の解説を読まず、赤で答えを直して終わりにする人もいますが、これでは何回解いても無駄です。きちんと読んで理解していくこと。読んで理解できない問題は質問してでもできるようにしましょう。これは「インプット」が完全にできていないものを確認し



「インプット」し直す作業です。ちなみに、答え合わせをしない、何ページも解いてから答え合わせをするという人。答え合わせは、大問一つごと、または一ページごとに行いましょう。

そして、問題には必ず○・×を入れていきましょう。×の問題を○にしていく作業が伸びる勉強です。○・×入れは勉強の基本です。

③ 単に問題集を一通り解いただけでは、意外に得点は伸びません。一度解いた時点では、自分ができる問題とできない問題を分けただけ。解説を読みながら理解した人もいると思いますが、それでも不十分です。なぜなら「インプット」の作業しかしてないからです。「アウトプット」の訓練をしないとダメです。つまりテストで得点を取るためには、解き直しをする必要があります。解き直しは、自力つまりノーヒントできちんと解けるようになるまで繰り返す必要があります。特に計算問題などは、あれこれ考えなくてもできるようにするまで繰り返す必要があります。

スピードが遅い人は、一つ一つの作業を余計なことを考えながら行う場合と、次の手順を見つかるまでに時間がかかる場合があると思います。どちらにしてもテストで得点を取るためには、単純な流れは無意識にできるようにするまで訓練するしかありません。

さて、以上の内容は何度も聞いたよとか、どこかで読んだことあるなとか思った人もいるでしょう。それは勉強の基本的な、しかし、絶対はずせないやり方だからです。

さらに、学力別のワークの使い方、入試における得点の取り方などは、数学の各講師に聞いて

てみてください。

初めはなかなか理解が進まない人も、学習量が溜まってくるとだんだん理解のスピードが速くなります。これは、新しいことを学ぶときは今迄学習したことをベースに身に付けていくからです。ですから、今苦手な人も、諦めずにコツコツ続けていくことが、今後の飛躍につながります。このやり方をきちんと身に付けて得点を伸ばしていきましょう。(松永)

# M氏の情熱

星新一のショート・ショートタイトルではない。

M氏とは、メイジャー映画配給会社の御曹司でありながら、プロテニスの世界へ進み活躍したM氏のことだ。伊達公子が当時の女王グラフを破った試合で、観客席で袴姿で日の丸を振って日本中を鼓舞した伝説の男、M氏のことであり、妻の出産の際も隣でテニスウェアで頑張れー!と励ましていたと言われる、そう、あの熱血漢の代名詞M氏のことである。



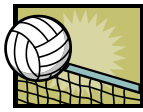
そのM氏のウェブサイトで公開されているムービー群が、大きな話題を呼んでいることをご存知だろうか。数十篇にもなるそのムービーは、いずれも数十秒から一分程度の長さで、様々なシチュエーションの中にM氏が自分の思いをメッセージとしてのせるという構成になっている。例えば、「一番になりたいあなたへ。パート2」と題された作品は、このような内容である。

◆(舞台は銭湯の中。老人が湯に入っている。画面が横に移動すると、なぜかタキシードで座っているM氏。眉間にしわを寄せおもむろに話し出す。)

「一番になるって言ったよな? 日本一になるって言ったよな? (表情険しく語気を荒げて) ぬるま湯なんか浸かってんじやねえよ! 今日からお前は! 富士山だ!!」(画面が壁の富士山の風景画へ移動)

これだけだ。ほとんどギャグである。M氏は、仕事の撮影の合間にアイデアが浮かぶと、その場でこういったムービーを撮ってしまうのだと言う(先般のものはおそらく某紳士服の撮影のとき)。しかし、不思議なことに、実際に映像を観ると、そんなシュールな状況に笑ってしまふよりも、胸を熱い気持ちで包むほうが勝るのである。「独りで苦しんでいるあなたへ」と題された作品ではこうである。

◆(港にて。夏の太陽の下、白いTシャツのM氏、泣きそうな顔で登場して)「独りで苦しんでいるんだろ? つらいだろ? ……じゃあ、エースをねえ」を歌ってみろよ。(突然振りつきで明るく歌い始めるM氏) ♪コートでは誰でもひとり…。(再び突然真顔になって) ひとりきりなんだよ! 私の愛も、私の苦しみも! 誰もわかつちやくれねえんだよ、ひとりなんだから! (再び歌い始める。ひとりきり歌った後で) 笑ってきた? これがいいんだよ。明るくなっただろ? ひとりでもやっつけていけるぞ! だから、自分の自信、エースを狙っていけ! (走り去っていく)



脱帽だ。喝を入れるのかと思ったら、実は自分道化となって相手のことを笑わせてあげる

のが彼の目的だったのだ。

私は、この二つの映像を、とある情報番組で偶然に観て、朝っぱらから不覚にも泣いてしまった。何がこんなに心を震わせるのだろうか。それは、M氏の本気さが、常にぶれていないからだろう。相手にも「ああ、この人本気なんだ」と響くのである。彼の行っている「修造チャレンジ」(あ、名前を出してしまいました)でも、彼は小学生にすら本気で叱る。そうして、壁を乗り越えていく子供たちの姿は、とても感動的だ。

ただし、これらは、すべて場面であり、部分である。人間は忘れていく生き物だ。一時の深い感銘もいつかは薄れていく。私たち講師の仕事は、一時のやる気を与えることだけではなく、その気持ちを継続させていくことでもある。部活動と同じように、勉強においても「上達できた」という経験をしてもらいたい—そのために、格闘している毎日である。(関)

## 効果0:2:8の法則

●誰でも学力は伸びる、得点は上がる。そう確信して生徒に向かっている。勿論、伸びない人もいる。しかしそれは、能力の欠如ではなく、やり方、考え方の問題である。次を読んでほしい。

●「効果0」の法則…何もしない人。これは伸びない。盲点はやっつけているつもりで伸びない人である。「やる」答えだけを聞く(確認する)のタイプは、伸びない。理解するという大事な過程が欠けているからである。ゴメンね。でも

一生伸びない。

●「効果2」の法則…大半の生徒がこれに該当。少し伸びる。最大限に能力を発揮することはない。「やる」説明を聞く(読む)↓答えを確認↓ある程度理解する」というタイプで、大事なことに気付いていない。それは「わかった」忘れる」ということである。例えば、こんなことがよくある。明日数学のテストで、前日解けない問題があったので解説を読んで理解した。テストでその問題が出たが解けなかった。みんな覚えがあるはずだ。これは当然で人間の記憶は弱いのだ。「わかった」数時間で忘れる」なのだ。

これに気付かず、「わかった」が勉強だと思っている人。キミも哀れだ。少しづつしか伸びない。



●「効果8」の法則…一回目の効果を2とすれば二回目は8で、足して1になる。勿論、単純な暗記物は二回では足りない。毎日やること。伸びる人は二回目の大事さを知っている。一回目は、「解いて頭を使うことと自分の弱点を発見すること」が目的で、二回目は、「解き方をマネすること」と自分の弱点を克服すること」が目的だとわかっていっているのだ。解き方をマネすることも弱点克服も二回目ではできない(問題によっては五回以上やることもある)。このタイプの人は伸びていく。今からでも遅くはない。「効果8の法則」を実行することだ。まだ時間はあふ。まだ伸びるよ。(小林(健))

### ▼▲継続希望の方へ▲▼

- ▶退塾や転校等で創学舎を離れた方にも、ご希望があれば創学舎ニュースを無料でお送り致します。
- ▶在籍していた教室までご連絡ください。